

# 令和7年度 学校評価総括表 (徳島県立板野支援学校)

| 重点課題             | 重点目標                           | 評価指標  | 評価指標の達成度  | 総合評価   | 関係者評価  | 次年度の課題  |
|------------------|--------------------------------|---|---|--|--|---|
| ・児童生徒に応じた教育活動の充実 | (人権教育課)<br>・多様性とお互いを認める人権教育の推進 | ①年間に2回以上、教職員に研修機会を提供し、人権意識の向上や人権学習の充実に資する。(年度末の教員アンケートにおいて、8割以上の教員から「人権意識が高まった」「これからの人権学習に役立つ」との回答を得られるようにする。)<br><br>②人権教育年間計画にもとづいた人権学習や「人権の日」の活動、校内人権週間にける啓発活動において、児童生徒が意欲的・主体的に取り組むことができる。(年度末の教員アンケートにおいて「人権学習や活動に児童生徒が意欲的に取り組めた」「主体的に取り組めた」とする回答を8割以上にする。)  | ①2回の研修会を実施した。教員アンケートにおいて、8割以上の教員から「人権意識が高まった」「これからの人権学習に役立つ」との回答を得ることができた。<br><br>②年間計画にもとづいた授業実施や人権の日のあいさつ運動、人権放送において児童生徒が意欲的・主体的に取り組むことができたという回答が8割以上であった   | (評定)A<br>(所見)<br>・教職員研修や人権教育の取組を計画的に実施し、人権意識の向上や理解を深めるための機会を確保することができた。教員アンケートの結果からも、人権教育に対する関心や必要性を感じていることがうかがえた。<br>・人権学習の年間計画に基づいた各学部、学級ごとの実践は、それぞれの児童生徒の特性や実態に応じた活動が、人権の視点を取り入れることにより工夫されている。<br>・人権教育に関する校内展示等を通じて、児童生徒や保護者に対する啓発活動を行うことができた。<br>・あいさつ運動や人権放送に参加した児童生徒は積極的に取り組むことができた。<br>・町人研大会に向けての準備は関係各所と連携を図りながら計画的に進めることができた。 | ・日々の教育が人権教育だが、個に応じた指導している。<br>・教員自身の人権意識を向上するために、教員への研修が大切である。 | ・研修や人権学習で得た学びを一過性のものにせず、日常の教育活動に継続的に生かしていくために、研修会後の振り返りや実践報告の共有方法を工夫し教員間での共通理解を深める必要がある。<br>・主体的に人権について考え、行動につなげられるような学習の工夫が必要で、年間計画の見直しや具体的に実践事例を示すなどして、児童生徒の発達段階や個々の特性に応じた指導を充実させていきたい。 |
|                  |                                | 活動計画  |   |  |  |   |
|                  |                                | ①-1 教職員対象の研修(6.8.10月頃)、校外研修の案内、各種研究大会の参加のよびかけを行う。<br>①-2 研修後に、研修内容をふりかえり、今後に生かされるようアンケートを実施する。<br>①-3 来年度の町人研大会(小学部)に向けて、各担当で連携し、計画・運営を図る。<br><br>②-1 人権学習について、各学級・ホームルーム毎に、年度初めには年間計画、年度末には実践報告を作成し、共有できるようにする。<br>②-2 「人権の日」に、あいさつ運動・「じんけん」配布・人権放送を実施し、児童生徒や保護者への啓発活動を行う。<br>②-3 来年度の町人研大会(小学部)において、児童生徒の発達段階をふまえながら、指導案作成や公開授業を実施できるようにする。 | ①-1教職員対象の研修、校外研修の案内、各種研究大会の参加のよびかけをJORURI掲示板を通じて全教員への周知を行った。<br>①-2研修後に、研修内容をふりかえり、アンケートを実施した。<br>①-3 来年度の町人研大会(小学部)に向けて、各担当で連携し、計画・運営をはかる。<br>②-1人権学習について、各学級・ホームルーム毎に、年間計画にもとづいて実践した。<br>②-2 「人権の日」のあいさつ運動は高等部の人権委員と生徒会役員により毎月、「じんけん」と人権放送については年5回、実施した。また、文化週間では児童生徒の人権ポスターを、校内人権週間では「やさしさつながるほっとHOTメッセージ」のパネル展示を通して、啓発活動を行った。<br>②-3 町人研大会においては、小学部の児童の発達段階をふまえ、個々の生徒の合理的配慮と進路を意識するなど、教員間で協力・工夫しながら指導案作成や公開授業の準備を行った。 |  |  |   |

| 重点課題                    | 重点目標   | 評価指標   | 評価指標の達成度   | 総合評価   | 関係者評価   | 次年度の課題   |
|-------------------------|--|--|--|--|---|--|
| ・保護者や地域、関係機関等と連携した教育の推進 | (研究自立活動課)<br>・医療機関や専門家を活用した自立活動の指導と、地域のニーズを踏まえた教育相談活動の推進 | ①年間を通じて、社会人講師(PT、OT、ST、FC)来校の日程を調整し、各学部において児童生徒の指導について指導助言を受け、指導力向上を図る。<br>②「給食等の指導」コンサルテーションを活用し、専門家の指導・助言を受けながら、給食等の指導の専門性及び指導力向上を図る。  | ①毎月各学部において社会人講師より、指導助言を受け、教員の指導力を向上させることができた。<br>②9月と12月に「給食等の指導」コンサルテーションを実施し、教員の専門性、指導力を向上させることができた。   | (評定)A<br>(所見)<br>・年間を通じて、社会人講師より、毎回有用な指導助言をいただくことができた。各教員が指導助言を児童生徒の指導に生かし、専門性の向上を図ることができた。<br>・「給食等の指導」コンサルテーションにより、担当教員の疑問が解消され、知識を深めることができた。成果は学部報告会、来年度8月の研修会で報告予定である。 | ・例えば肢体不自由の専門性も他の障がい種の学習効果につながる。障がい種にこだわらず、教科で求められるところが自立活動がベースになり成果につながっていくと思っで、課で指標として持つことが専門性の向上にもつながる。 | ・肢体不自由の児童生徒の指導について、教員の専門性向上が本校の課題であり、来年度も引き続き、社会人講師を活用した研修会などを継続する予定である。<br>・コンサルテーションを積極的に受けようとする教員の意識を高めるための校内での働きかけの在り方が今後の課題である。 |
|                         |  | 活動計画   | 活動計画の実施状況  |  |   |  |
|                         |  | ①ー1 各学部において、社会人講師より指導助言を受ける希望を募り、日程を調整する。<br>①ー2 児童生徒の実態等について、各担任に実態や質問内容の記入を依頼する。<br>①ー3 当日は社会人講師を校内案内し、各担任が指導助言の記録を行う。<br>①ー4 各担任がまとめた指導助言の記録を校内サーバーへの保存を依頼する。<br>②ー1 「給食等の指導」コンサルテーションを受ける学部、児童生徒を校内で相談の上、決定し、申込みを行う。<br>②ー2 対象児童生徒の担任に児童生徒の実態、指導助言を受けたい事項のまとめを依頼する。まとも次第、事前に県教委に提出する。<br>②ー3 コンサルを受ける日程を本校、県教委で相談・調整する。<br>②ー4 年間2回のコンサルを受け、指導助言を受けた内容を担任、研究・自立活動課でまとめ、校内で共有し、今後の指導に生かす。 | ①ー1 毎回希望を募り、日程調整を行った。<br>①ー2 児童生徒の実態、質問事項の記入を依頼し、記入してもらうことができた。<br>①ー3 各学部担当者が社会人講師を案内し、各担任が記録を行った。<br>①ー4 各担任が指導助言を記録し、サーバーに保存した。<br>②ー1 中学部より1名コンサルテーションを受ける生徒を決定し、申込みを行った。<br>②ー2 実態、質問事項について担任がまとめ、県教委に動画とともに提出した。<br>②ー3 コンサルを受ける日程について、相談、調整を行った。<br>②ー4 9月、12月にコンサルを受けた内容をまとめ、校内の報告会で報告予定である。 |  |   |  |

| 重点課題                    | 重点目標  | 評価指標  | 評価指標の達成度   | 総合評価  | 関係者評価   | 次年度の課題  |
|-------------------------|---|---|--|---|---|---|
| ・保護者や地域、関係機関等と連携した教育の推進 | (特別支援課)医療機関や専門家を活用した自立活動の指導と、地域のニーズを踏まえた教育相談活動の推進 | ①夏季公開研修会で、特別支援教育と金融教育の研修機会を提供する。開発的教育相談の視点に立って、より社会性を身に付け、自己実現が図れるような指導・支援をする活動を推進していく。金融リテラシーの正しい知識、判断力を身につけていく指導方法を知ること児童生徒の社会的自立の支援にいかすようにする。<br>②毎週1回の学校カウンセリングの運用を充実させ、児童生徒の悩みや問題を解決し、安心して学校生活を送れるようにする。心理的な発達を援助する活動の推進を行う。昨年度より、利用者の数を増やすように取り組む。<br>③年間、教育相談学会事務局を担い、研究主題「生徒に寄り添い、豊かな未来を築く教育相談」をテーマに教育相談学会参加者の相互の情報共有や専門性の向上につなげる事業を引き続き推進していく。(学会後のアンケートにおいて、7割以上の参加者から、教育相談に役立つ内容であったと回答が得られるように運用をする)                        | ①夏季公開研修は「お金で学ぶさんずう 特別支援教育と金融教育」をテーマに、特定非営利活動法人、住山志津枝氏を講師として京都よりオンラインによる研修を行った。参加者63名(校外18名校内45名)が参加をして、アンケート結果の約9割から「とても良い」「良い」の有意義な研修会であったと回答があった。<br>②学校カウンセリングの年間回数は、27回。<br>利用者数は、67人であった。(2026年1月まで)<br>③2回の常任理事会の開催、8月22日の教育相談学会を行い、31人からのアンケート結果、74%から「満足・ほぼ満足」の回答をもらい、教育相談に役立つという回答があった。   | (評定)A<br>(所見)<br>・夏季公開研修の立案、計画、前日準備、当日と京都よりオンラインで計画通り開催をすることができた。参加者からのアンケート結果もよく、有意義な研修会が実施できた。<br>・学校カウンセリングは、昨年度よりも利用者が増えて、運用を充実させることができた。<br>・令和7年度の教育研究会教育相談学会の事務局を担当し、滞りなく運営することができた。 | ・社会に出るために金融教育が大切なので、良いテーマだった。今後も学校では大切である。<br>・学校カウンセリングについて、教員もカウンセリング技術は必要ではないか。教員で学校心理師等の資格を持っている方がいれば組織として生かしていく体制が必要である。 | ・令和8年度は夏季公開研修の開催時期を早めに行い、第1案は「子どもの命と心を守るためのリスクマネジメント」をテーマに有意義な研修会の開催に努めた。<br>・学校カウンセリングの運用の充実のため、広報活動を行い、安心した学校生活を送られるように努めていきたい。 |
|                         |   | 活動計画  | 活動計画の実施状況  |   |   |   |
|                         |   | ①ー1 夏季公開研修の内容を特別支援教育と金融教育の内容を選択する。<br>①ー2 本校の研修会(7月)、鳴門市特別支援教育研修会(8月)の案内、参加の呼びかけを行う。<br>①ー3 研修会後にアンケートを実施して、次回の研修会にいかす。<br>②ー1 学校カウンセリングの保護者案内、校内案内、広報活動(チラシづくり)を行う。<br>②ー2 カウンセリングの担当者として、「カウンセリングだより」を年間2回以上、配布をする。<br>②ー3 カウンセリング担当者の校内見学を実施して、児童生徒の様子、観察の機会を2回以上行う。<br>③ー1 教育相談学会研究大会の事務局を担当して、運営をする。<br>③ー2 通年2回の理事会、研修会、引継ぎなどの会議を開催する。<br>③ー3 教育相談学会にて、情報交換会がしやすいテーマを選択する。<br>③ー4 教育相談学会研究大会後にアンケートを実施して、参加者の意見を次年度にいかすように引継ぎを行う。 | ①ー1 「特別支援教育と金融教育」をテーマに実施ができた。<br>①ー2 今年度は、鳴門市特別支援教育研修会への参加はなかった。<br>①ー3 研修会後にアンケートを実施ができた。<br>②ー1 学校カウンセリングの保護者案内、校内案内、広報活動(チラシづくり)を行えた。<br>②ー2 カウンセリングの担当者として、「カウンセリングだより」を年間2回以上、配布をした。<br>②ー3 カウンセリング担当者の校内見学を実施して、児童生徒の様子、観察の機会を2回以上行えた。<br>③ー1 教育相談学会研究大会の事務局を担当して、運営ができた。<br>③ー2 通年2回の理事会、研修会、引継ぎなどの会議を開催した。<br>③ー3 教育相談学会の分科会は「教育相談で大切にしている視点について」をテーマとして情報交換会が行えた。<br>③ー4 教育相談学会研究大会後にアンケートを実施して、参加者の意見を次年度にいかすように引継ぎを行えた。 |   |   |   |

| 重点課題        | 重点目標                             | 評価指標  | 評価指標の達成度   | 総合評価   | 関係者評価  | 次年度の課題   |
|-------------|----------------------------------|---|--|--|--|--|
| ・安心安全な学校づくり | (保健課)学校保健(医療的ケア等)や安全対策(事故防止等)の推進 | ①救急法と緊急時の対応に関する職員研修を実施する。                                   | ①4月にAED・救急法講習会、5月に各学部毎に緊急対応訓練及び研修を実施した。  | (評定)A<br>(所見)<br>・すべての活動において計画通り実施することができた。緊急時には、養護教諭や看護師を中心に、各教職員が連携しながら的確に動くことができた。<br>・インシデント報告書やアンケートから事例を共有し、大きな事故を未然に防ぐことができた。 | ・AEDについて、校舎も広いので個数を増やして設置したらよい。<br>・機器だけあつたら良いのではなく、対応できる人材を育成して備えることが大切である。 | ・研究・自立活動課と連携し、給食時の指導や異物混入に関するマニュアルを校内に周知していきたい。<br>・次年度も緊急対応訓練や研修を実施するとともに、ヒアリハット事例等を教職員に情報共有し、事故防止、再発防止につなげられるよう努めたい。 |
|             |                                  | ②校内で発生したヒヤリハット事例を教職員間で共有し、重大事故が発生する前に対策を講じる。                | ②インシデント報告書を作成し、全校に共有した。長期休業前にアンケートを行い、日常気になっている危険につながる場所やケースを共有し、保健課員で検討、全校に周知した。  |  |  |  |
|             |                                  | 活動計画  | 活動計画の実施状況  |  |  |  |
|             |                                  | ①-1 4月に板野西部消防署員を講師に招聘し、心肺蘇生法やAED、エビベンについて学ぶ。                | ①-1 4月に板野西部消防署員を講師に招聘し、心肺蘇生法やAED、エビベンについて学ぶ機会を持つことができた。  |  |  |  |
|             |                                  | ①-2 本校の看護師を講師に、プログラムについて学び、所持している児童生徒についての情報を共有する。          | ①-2 本校の看護師を講師に、プログラムについて学び、所持している児童生徒についての情報を共有することができた。   |  |  |  |
|             |                                  | ①-3 各学部ごとに緊急対応訓練を行い、緊急時の教職員の動きやストレッチャー・救急セットの場所を確認する機会を設ける。 | ①-3 各学部ごとに緊急対応訓練を行い、緊急時の教職員の動きやストレッチャー・救急セットの場所を確認した。訓練であがった課題をふまえ、校内の各電話機に校内放送の番号を大きく掲示したり、学校保健委員会で指示手順カードの改訂等を検討したりした。 |  |  |  |
|             |                                  | ①-4 本校の看護師を講師に、坐薬挿入やストレッチャーの移動の仕方について学ぶ機会を設定する。             | ①-4 本校の看護師を講師に、坐薬挿入やストレッチャーの移動の仕方について学んだ。  |  |  |  |
|             |                                  | ②-1 インシデント報告書を作成し、発生要因や今後の対策を共有する。                          | ②-1 インシデント報告書を作成し、発生要因や今後の対策を共有した。全校共通の保存フォルダを作成した。  |  |  |  |
|             |                                  | ②-2 夏休みと冬休みに職員アンケートを実施し、報告書作成には至らなかったが危険だと感じた事例を共有する。       | ②-2 夏休みと冬休みに職員アンケートを実施し、報告書作成には至らなかったが危険だと感じた事例を共有し改善策を講じた。  |  |  |  |